

海外留学帰国報告書

氏 名 : 市原美穂

留学期間 : 2015年3月 ~ 2015年7月

1. 出発前の準備

(1) 留学の目的

もともと海外に興味がありましたが、旅行で一度行ったことがあるだけだったので、海外で生活し、実際に外国人の考え方や文化に触れたいと思いました。また、大学に入ってから学び始めたドイツ語を現地に行って学び、使えるようになりたいと思いました。さらに、観光のゼミに所属しており、観光に興味を持っていたので、長期休暇があつて旅行好きといわれるドイツ人の旅行スタイルを知ることと、自分自身でヨーロッパを旅行し、いろいろな観光地を周るとともに、各国のホテルや交通機関などを体験することも目的としました。

(2) 学習計画

英語で専門科目を受講し、授業時間外は現地の学生と **Tandem** をしてドイツ語を伸ばそうと計画を立てました。

(3) 入学許可申請

商学部に留学のための書類を揃えて提出し、面接や審査を経て派遣候補者となります。商学部に提出する書類として、履修計画書がありますが、学校のホームページから英語で開講されるリストを探すのは難しいです。リンクは2015年度の夏学期のものですが、参考にしてみてください。

C:\Users\PCUser\Documents>List of English Lectures SS 2015_03.03.pdf

ブレーメン経済工科大学から受け入れが許可されると、入学許可書が自宅に郵送で届きます。入学許可書は現地での入学手続きや保険の加入、ビザの取得の際に必要となります。また、空港で滞在目的を証明する際にも提示を求められました。

(4) 外国語能力

二年次の秋にドイツ語検定二級を取得しました。二級の勉強は苦勞しましたが、留学して現地の学生とコミュニケーションを図る際に大変役立ちました。留学をして最初のころは、ドイツ語の文法ができて、辞書を使いながら文章を読むことはできて、話す、聞く能力がほとんどないことを痛感しました。そこで、好きな映画をドイツ語で観てセリフを覚えたり、覚えたものを **Tandem** パートナーなどに実際に使ってみたりすることでドイツ語の言い回しを学んでいきました。日本にいる時から文法のほかにもドイツ語の音を聞いて真似してみるということをやっておけばよかったと思います。

また、留学中は専門科目を英語で受講しましたが、授業を聞いて内容を理解するだけでなく、それを踏まえたうえで討論し、自分の考えを述べることが求められます。ほかの

国の留学生たちはどんどん自分の意見を発表し、疑問に思ったことはその場で教授に問いかけます。留学先での学習をより良いものにするためには、英語を話すことに抵抗がないくらいの力が必要だと感じました。

(5) 留学費用

学部間の協定留学なので、学費は明治大学に納めます。その他にかかった主な費用は学期のはじめに通学定期券の値段等が含まれた諸経費 219.80€、保険料 471.73€ (AOK 半年)、教材費 15€、プリペイド式の携帯電話 30€ (半年)、ビザの申請 120€、航空券 15 万円 (一年間有効のオープンチケット、往復) と、月々 295€ の家賃と食費や休暇中の旅費です。レストランでの外食は日本の倍くらいしますが、スーパーで食材を買って自炊すれば日本より安く済みます。そのほか衣類や生活雑貨の物価は日本と同じくらいです。

(6) 奨学金

明治大学外国留学奨励助成金、明治大学連合父母会海外留学助成金、日本学生支援機構 (JASSO) 海外留学支援制度 (短期派遣) 奨学金を受給しました。全て給付型で返還不要でした。奨学金は早くからいろいろ情報を集める必要があると思います。

(7) 旅行保険・健康保険

旅行保険は加入せず、クレジットカードに付帯の保険で出国しました。ドイツでは現地の健康保険の加入が義務づけられており、大学で入学手続きをする場所に保険会社の人が待機しているので、そのときに加入します。保険料は半年分まとめて振り込みか、月々引き落とししか選択できます。

2. 協定校での諸手続き

学期のはじめに学校でオリエンテーション期間があり、その期間中に入学手続きを行います。その際に必要な書類はビザのコピー、パスポートのコピー、パスポートサイズの写真、保険の加入証明書、諸経費振り込み証明書です。詳細は担当の方からオリエンテーション前にメールで知らされます。入学手続きを行うと定期券を受け取ることができ、トラムやバスに自由に乗れるようになるので、早めに手続きをすると便利です。ビザの申請や住民登録、銀行口座の開設については“ブレーメン留学体験記 12 佐野雅弘”さんのページに詳しく書かれていますので、参考にしてください。

3. 宿舎と日常生活

私はブレーメンの大学から紹介された家のリストから選びました。大学から入学が許可され、入学許可書が送られてきた後に家のリストが掲載されたページにアクセスするための ID やパスワードが送られてくると聞いていましたが、12 月になっても来なかったのでメールで催促してようやく送られてきたのは 1 月中旬でした。それからリストを見て希望の家を探し、大家さんにメールをして連絡を取ります。大学から紹介される家のほとんどは家主が同じ家に住んでいて、間借りする形です。私は住むことが決まった時点でデポジットを送金するようもとめられ、郵便局から送金しました。

私が住んだ家は大学からトラムで 10 分ほどの場所です。家は 4 階建で、すべての部屋が留学生に貸し出されていました。それぞれのフロアに 2 人ずつ、全部で 8 人住んでいました。わたしのフロアはシャワー、トイレ、キッチンがついていて 2 人で使うことが出来ま

したが、上のフロアは4人で共用でした。

大学から紹介される家のほかにも、ブレーメンには学生や若者同士で家をシェアしてシャワーやキッチンが共用というWGと呼ばれるスタイルも多く、ルームメイトを探しているサイトがあります。

<http://www.wg-gesucht.de/wg-zimmer-in-Bremen.17.0.1.0.html>

また、生協のような団体の運営する学生寮もあります。とても人気なので早いうちからコンタクトを取る必要がありますが、きれいなところが多い気がします。

<http://www.stw-bremen.de/de/wohnen/studentisches-wohnen>

日常生活に必要なものは、基本的になんでも揃えることができます。ブレーメンは小さな町ですが、スーパーやドラッグストア等はたくさんあり、どこに住んでも生活に困ることはないと思います。街にはZARAやH&Mもあり、私は夏服を全く持って行きませんが、授業はあまりたくさん受講しませんでした。授業のない時間はTandemをしたり、仲良くなった学生と出かけたりして充実した日々を送ることが出来ました。

4. 協定校のカリキュラム・履修した授業、課外活動、留学の成果

専門科目を英語で履修し、その他に英語とドイツ語の語学コースを受講しました。ドイツ語の授業はすべてドイツ語で行われます。私はB1.1を受講していましたが、先生がとても素敵で、楽しく学ぶことが出来ました。ドイツ語のクラスでは他の国の留学生とも一緒に学びますが、少人数なのでそれぞれの留学生たちの国についてドイツ語で話して知ることができ、英語でつながる世界ではなく、ドイツ語でつながる世界を感じたのは印象的でした。

また、課外活動とは呼べないかもしれませんが、留学の目的の一つの旅行をたくさんしました。四月にある二週間ほどの休暇でドイツ国内を周り、それから帰国まで毎月泊りがけの旅行に出かけました。特に学校が終わってからの約一カ月では5か国11都市を周りまわりました。留学に行く前はほとんど海外に出たこともなかったのが、半年の内にこんなにたくさんの国を訪れることはヨーロッパに留学に行ったから実現できたことだと思います。また、自分で旅行の計画を立てて交通手段やホテルはネットで予約しましたが、安いものを探したり、詳細な注意事項を読んだりしていくうちに、自然に外国語に対する抵抗が減ったと思います。

5. 帰国準備と帰国後の手続き

銀行口座の解約や住民登録の解除などをする必要がありますが、一日で済ませることが出来ました。帰国後は商学部事務室に連絡すると帰国届などの提出物を指示されるので、書類をまとめます。

6. 商学部学生へのメッセージ

たかが半年、されど半年。ドイツでの留学生活は私を大きく変えたと思います。明治大学に入学し、最初の頃は英語圏に留学に行きたいと思っていました。しかし、第二外国語と

してドイツ語を学び、今までに学習した言語と文法が全く違ってややこしいことには苦勞しましたが、だんだんドイツという国に興味を持つようになりました。実際に留学に行ってみて他の国の留学生と交流したり、ドイツ以外のヨーロッパの国を旅行したりして感じたのは、ドイツは住みやすく、国民性も日本人と比較的似ていて打ち解けやすいということです。ほとんどの学生が年上だったのですが、みんな本当に親切で、兄や姉がたくさんできたような気分です。また、時間の流れがゆっくりです。アルバイトをしている学生はほとんどおらず、友達や家族との時間を大切にします。天気がいいと喜んで外に出て、川辺や公園で過ごすというのも、東京にいとめったにできない新鮮な体験でした。留学で言語を学んだり専門科目を学んだりということももちろんですが、日本にはないその国の特性や暮らしを知り、日本に帰ってきてからも、自分の生活をより豊かにすることができるのではないかと思います。留学しようか迷っている人がいたら、ぜひ飛び込んでいってください！